
夏の獲物

真咲静夜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の獲物

【Nコード】

N0614Q

【作者名】

真咲静夜

【あらすじ】

夏の字がつく二人が好きなのはお祭り男…

「なあ」

「あ？」

高校も入って1年も経てば、それなりの友人もできる。

話しかけたのは友人の一人であり、片想いの相手。

同じクラス、出席番号は前後、ぱちりとした目に意外に長いまつ毛、天パでたまに妖怪アンテナが立ってしまう厄介な髪（とヤツは言っている）の持ち主。

仁科祭、その名の通りのお祭り男！俺をバイだと自覚させた男だった。

「ザクってやつぱかっけーわ」

「ザクよりドムだろ」

最近モビルスーツの出ってくるアニメにハマった祭から出てくるのはその話題ばかり

「やつぱお前いーわ！引き出しが多い奴、好きだぜ」

「そういうお前は雑学が少なすぎる。中学で何を習ってきたんだ。中学の勉強は雑学を知るための基礎だぞ？」

「そうゆってくれるな！俺は楽しいことだけをしてきたんだ…でもお前が教えてくれるから最近はさらに楽しいぞ」

「ひらがなで喋るなよ」

ああ、俺もお前と話すの楽しいよ。…お前に彼女がいなけりゃ、も
っと楽しいのに…

「お！なつだ！」

そうやって好きだと言いつつも、やっぱり異性がいいんだな…
彼女を見かけて追い掛けた祭を一瞬目で追い、読みかけだった手元
の小説に視線を戻した。

「琉夏^{るか}…」

「夏依^{なつゐ}」

棚橋夏依は祭の彼女で、俺の幼なじみ。

互いの兄弟以上に互いを知っている存在…もちろん俺が祭が好きな
のも知っている。

俺の初めての女だったりもする…

「祭に告白しないの？」

部屋で寛いでいたら、祭と帰ったはずの夏依が来た。

「しない…お前、祭の彼女だろうが…」

「今はね…だから、祭が何を見てるかも知ってるつもりよ…」

何が言いたい

俺がベッドで寝転んでいる時の定位置である椅子に座った夏依。

夏枝の目が怖い…狙っている目だ…何を狙っている？

「間違いなく祭は琉夏が好きよ」

「ば…ばか言っちなよ…」

「でも私が居るから身動き取れないみたい…。バカなのよね。私が琉夏とずっと一緒に居たでしょ？だから、自分の視界にいた女だった私を好きだと思っっちゃったのよ…私も祭が好きだったから付き合っただけ…」

夏依の目が俺に刺さる。

知っていた夏依は祭が好きなんだ。
きちんと好きなんだと知っていた。

「でもね、祭、最近気が付いたみたい。琉夏が好きって…私、祭を振ろうと思うの…だからね、琉夏、祭に告白しなよ」

「夏依…」

「琉夏が祭と付き合ってくれたら、二兎を得られるのよね」

そうだった…お前はそういう奴だよな。

きつと祭以上に好きな奴ができたけど、祭を手放すのも惜しいんだ

な？

「私…ワガママだもの。好きな人とは誰一人として離れたくないの」

「夏依、さっさと祭を振ってくれ…」

「ふふ…琉夏も祭も…倉敷先生も…私のね」

お前…本命はうちの担任か！

「話は終わり…またね」

あっさりと帰った夏依は女王だ…そして、俺も夏依から離れることもない。

「祭」

祭を昨日振ったと夏依からメールが届いた。

「どうした？琉夏」

誰も居なくなつた教室で祭と二人…

一緒に帰ろうと伝えておいて、誰も居なくなるまで待つ。
そして俺は立ち上がって、祭に近寄り……唇を重ねた。
チュツとなるリップノイズ…

「なあ、お前が好きなのは本当に夏依か？」

「琉夏？」

「それとも俺か？」

真っ赤になる祭の顔でわかる。

「もう一度キスしても？」

微かに頷く祭が好きでしかたない。
絡む舌が心地いい。

「琉夏が好きだ」

「…知ってる」

祭…好きだよ…

（後書き）

夏依の方はそのうちT&sに出てくるかも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0614q/>

夏の獲物

2011年1月16日05時57分発行